

ウッドデザイン賞 2020

上位受賞作品のご紹介



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2020



審査委員長 赤池 学

ウッドデザイン賞も6回目を迎え、良い意味での転換期に入ったという感覚を持った2020の審査であった。建築・空間分野では中高層建築の木造、木質化の果敢なチャレンジが目をつけた。一般住宅も単に木を使っただけでなく、それを活かした心地よさや適材適所の木の使い方など実験的・提案的な作品が受賞している。木製品分野も素材に木を使ってみたというだけの作品には厳しい評価となった。これはもっと地域のデザイナーやデザイン系の大学などと連携をして作品の質を高めて欲しいという私たちからのエールでもある。斬新で洗練された、次なるウッドデザイン賞の登場に期待したい。

★ 分野長

建築・空間・建材・部材分野

隈 研吾 ★



人の暮らしや生業の中で木とうまく付き合うことを目指すというウッドデザイン賞の主旨に合う作品が顕著になってきた。社会のあり方や働き方が急激に変化した時期にあって建築と地域、木や森との関係性はますます深まっていくと考えている。

腰 原 幹 雄



充実した作品群に出逢えた今年の審査だった。新技術を使った現代の木造建築の提案が増えてきた。その点でこれまで培ってきた技術を振り返り、新技術との融合も必要になってくる。時代の持つ価値観に合わせた木造建築の可能性をさらに探って欲しい。

鈴 木 恵 千 代



木を使った空間の持つしっとり感や質感が格段に上がってきた。一方で洗練されたデザインだが、まだ伸びしろがあるものも多く、こうした流れが設計者に伝わることでより新たな発想も出てくる。木を使った「普遍的な」デザインの登場を心待ちにしている。

手 塚 由 比



全体のレベルが上がっており賞が浸透してきたことを感じる。新たなチャレンジや社会に対するメッセージがある作品が選ばれるようになっている。その空間で何や大事にしているか、利用者にとって細やかなデザインがされているか、を重視した審査だった。

木製品分野

益 田 文 和 ★



審査を通じて、作り手とデザインの間に距離ができていないのではないかと感じた。説明を聞かないと製品の良さに気づけないのではなく、使い手が自然に思いを受け取ってくれるものが優れたデザイン。単純な言葉で語れて、それが形になっていることが重要だ。

島 村 卓 実



木の持つ「綺麗さ」を出して欲しいと思う。綺麗さには機能性、地域の意味、デザインの美しさの3つがある。なぜこの製品ができたか、背景や歴史、技術、人、これらの要素を組み合わせ、精査し、その中で初めて生まれるデザインこそが感動と呼ぶのである。

高 橋 正 実



モノからつくるのではなく、その先にある目的を明確に持ってデザインすることが大切である。各作品からは社会の大きな動き、例えばSDGsを意識していることが伝わってきた。あるべき未来像からの逆算、課題解決型のデザインをしていくとより広がると思う。

矢 島 里 佳



その製品を使う人、使うシーンをいかに想像してトータルなデザインをしているか、という視点で審査した。技術を磨きそれを形にする努力と同じくらい、誰を幸せにしたいのかという観察眼、感性を磨く努力も必要で、その両面からのデザインに期待したい。

コミュニケーション分野

山 崎 亮 ★



「これも木でできるんだ」「こんな風に木を使いたい」と思ってくれる出口を増やすことが大切な賞だったんだと強く感じた。森や木の良い循環を回すこともとても大切だが、そこに留まらずそれを使った意欲的なプロジェクト、製品やサービスの提案が重要だ。

戸 村 亜 紀



素材としての木、仕事場としての森の伝え方はとても良くなった。サーキュラーエコノミーの視点やまだ大きく日の当たらない分野での木の活用も増えた。取組のタイトルの見せ方は重要で、「人」「自然」「循環」のどこに焦点を当てたのかを明確にするるとよい。

古 田 秘 馬



これまで都市部での木の価値を高めるための提案が多かったのに比べ、今は地域の循環が目ざされている。都市から地域へのシフトという潮流の中で、若い世代もそこに関わることがトレンドになっている。受賞作を参考に次の連携や学びの活動に展開して欲しい。

若 杉 浩 一



今年から審査に加わったが、社会をどう見るかという視点から、木材利用や木との関わり方を考えている先進的な賞だと感じた。地域資源を市民が動かす活動や森林を通じた食産業への展開は注目すべき分野であり、それらをいかにデザインするかが大切と思う。

技術・研究分野

伊 香 賀 俊 治 ★



CLTを内装に使うための耐火被覆技術など、木材利用の普及拡大につながる良い作品が多かった。研究では、内装木質化と睡眠の質の関係に関する研究が印象に残った。木質化がもたらす人への効果測定の面でも森林系と医学系の連携は今後も求められてくるだろう。

相 茶 正 彦



技術開発においては、一定の成果が出るか、そのエビデンスを取ることができるかが重要なポイント。そのうえで発展の可能性を感じさせる提案を選びたい。今後は、自治体の積極的な活動に新たな技術やアイデアを盛り込んだ応募が増えることを望んでいる。

青 木 謙 治



新しい技術や研究では新たなチャレンジをしている点は評価したいが、作り手の思いだけでなく、第三者の評価、客観的評価をとることが重要である。データは継続して取り続けることで新たな発見につながり、複数回の受賞もあり得るので挑戦を続けて欲しい。

恒 次 祐 子



技術・研究分野では、その取組に対する姿勢や研究が目指すものが何であるかが最も重要だ。エビデンスも使用者の実感や声を集めるところから始めれば取り組みやすい。そのうえで地域の木材の良さに精通する研究機関や大学からの助言や連携を進めてはどうか。

最優秀賞（農林水産大臣賞）

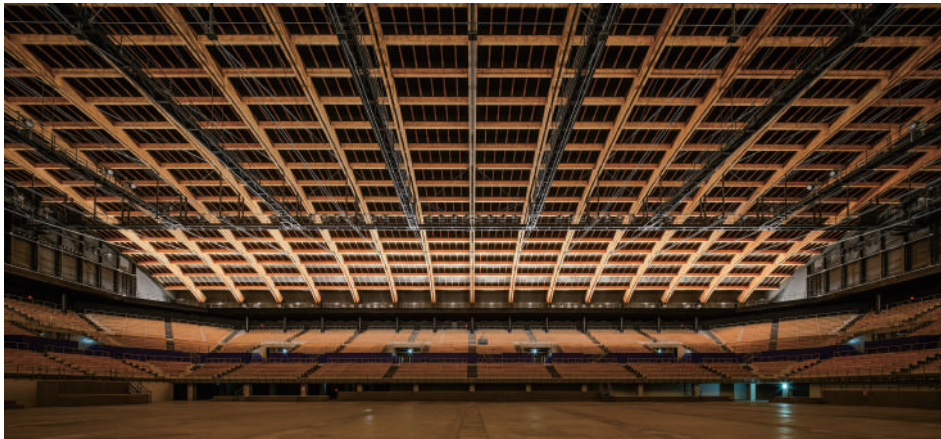
（ ）内の「都道府県」は建築物などの所在地、活動が実施された地域で、一般に流通しているもの・特に該当しないものは主な受賞団体所在地です。

ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

有明体操競技場（東京都）

株式会社日建設計（東京都）、清水建設株式会社（東京都）、
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（東京都）

国際規模のスポーツ競技大会施設。日本の伝統的な木造建築の美しさを醸しつつ、多くの観客を迎え入れる競技場としての機能性を併せ持つ、世界に発信すべき建築であり、最優秀賞にふさわしい作品として高く評価した。競技エリア天井の木架構の現しなど、「質素で潔い建築」が見る者を圧倒する。日本各地から木材を調達し、カラマツの大屋根、スギの外装や観客席などで木材を約2,300㎡使用している。日本の「木を使い、木と親しむ文化」の海外への発信を担うにふさわしい作品と考える。



特別賞（木のおもてなし賞）

ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

CONTEXTED（コンテクステッド）

合同会社REVeearth（神奈川県）、Office for Environment Architecture（大阪府）、Tokyo Lighting Design 合同会社（東京都）、（株）キドビル工務店（大阪府）、関西木材工業（株）（大阪府）、土井住宅産業（株）（大阪府）



長屋をリノベーションした3棟それぞれに「隠れ家」・「折り紙」・「茶室」といったテーマがあり、日本の木の文化を活かし、うまくデザインされた空間。長屋の面影を残しつつ、洗練された内部空間はインバウンドにも受けそうだ。

ハートフルデザイン部門 建築・空間分野

THE HIRAMATSU 京都

NTT都市開発（株）（東京都）、（株）日建設計大阪オフィス（大阪府）、（株）大林組大阪本店（大阪府）、中村外二工務店（京都府）



明治32年築の京町家を施設の一部として保存利用したホテル計画。1階の共用部は京町家らしさを残す格子や障子、小屋組みなどが美しく、機能的に用いられている。客室は木材と紙や漆喰などの自然素材に囲まれ、日本文化を感じる、木のおもてなしに満ちた空間に仕上がっている。

ハートフルデザイン部門 木製品分野

HEXa（ヘキサ）

GRIND ARCHITECTS（広島県）、前田基貴（広島県）



広島県内の職人による「組木」の伝統技術を用いた作品。外周は円形、酒が入る内側は六角形のデザインは加工に高度な技術を要する。丸みがあるため持ちやすく、飲みやすい。ヒノキやホノノキ、ネズミサシといった樹種ごとの香りの味わいも趣きがあり、地元食材と合わせて楽しみたい。

ハートフルデザイン部門 木製品分野

ひねり髪すき/Japan

アートフォルム（有）（秋田県）



固く貴重な斧折樺（おのおれかんば）を素材に、手仕事で立体的な曲線に創り上げた日本の新しい櫛の形である。絶妙な曲線のフォルムは櫛の先が頭皮にフィットし、頭皮の肌触りの心地良さや血行促進を促すという機能性がある。手作業による独特の味わいを醸し出している。

優秀賞（林野庁長官賞）



ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

木硯(もっけん)

YOAKE(福岡県)、TAWARA(福岡県)

手書き文化の復権と素材としての木の活用を融合させ、日本の文化を再認識させるという意欲的な作品で、硯の質感がとてもよい。材料であるエンジュの一木を半割にしているため、蓋を閉めるとひとつの木の塊に見え、オブジェのような存在にもなる。伝統的な文具の世界での木材利用という点で、その独創性を評価した。

奨励賞（審査委員長賞）



ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

北海道産エゾマツ材サイレントウクレレ "elevocco"

(株)クワイアン(北海道)

音響特性に優れたエゾマツを利用することで振動を使って奏でる点に特徴がある。細身で軽い本作品は可搬性や収納性に優れるだけでなく、幹が細い材の有効活用にもつながっている。



ハートフルデザイン部門 コミュニケーション分野

『HITA SUGI しめ縄』

(有)限会社高村木材(大分県)

葉蒔きに始まり、地産の針葉樹を添えるしめ縄づくりのワークショップ。地元林業家と協働して、地元の木を使いながらつくるプロセスは、クリエイティブな行為を通じて山側と消費者を結び、素材の面白さや奥深さを伝える。伝統文化を守りつつ現代の暮らしに活かす良質な取組。



ライフスタイルデザイン部門 建材・部材分野

Continuum

(株)九銘協(福岡県)

斜めに継ぎ合わせた連続性のある木の意匠が、独特の緊張感を生み出し、店舗の顔となるカウンターで使えばインパクトがあるだろう。インテリアの木質化デザインでは新規性が光るアイデアが少ないなか、店舗設計の視点から見ても刺激もらえるような斬新さが本作品にはある。吉野松のアピールの面でも付加価値をもたらしている。



ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

QRwood

ハッチ・クリエイト・ワークス(株)(大阪府)

木材にバーコードを彫り込むという独創性を評価した。木質感のある立体的な意匠は人々の興味を引き、ついアクセスしたくなるインパクトを持つ。デジタルネットワークへの入り口を木質化するというユニークな発想がよい。



ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

mother's+(マザーズプラス)(北海道)

(有)北海道種鶏農場(北海道)、(株)竹中工務店(北海道)、藤寿産業(株)(福島県)、物林(株)(東京都)、協同組合オホーツクウッドピア(北海道)

「アニマルウェルフェア(動物福祉)」の思想により鶏の放牧を行うパイロットファームの施設。グリーンツーリズムというコンセプトと、木造建築が見事にマッチした質の高い作品。環境、動物、人間社会の調和というテーマを体現した道産材を使った木質空間が高い付加価値を与える。



ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

CLT PARK HARUMI(東京都)

三菱地所(株)(東京都)、(株)三菱地所設計(東京都)、(株)隈研吾建築都市設計事務所(東京都)

CLTのショーケースとして、子どもや来場者が木に触れその魅力を感じることができる空間。多様な工法による多様な空間、端材を使ったテーブルやスツールなど、随所に木を感じられる仕掛けを施している。地域材を活用し、都心で使用した後、解体移築した帰りさせるといった木造建築ならではの都市と地方を結ぶ循環型経済モデルとしても独創的な取組。



ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

椿茶屋(長崎県)

石飛亮建築設計事務所(神奈川県)、五島自動車(株)(長崎県)、(株)松岡建設(長崎県)、草草社(長崎県)

風景との親和性を保ちつつ、古材を再利用した囲炉裏テーブルなどがある内部は懐かしさも感じさせる。ここで味わう地元食材も合わせ、地域の魅力を堪能できるだろう。

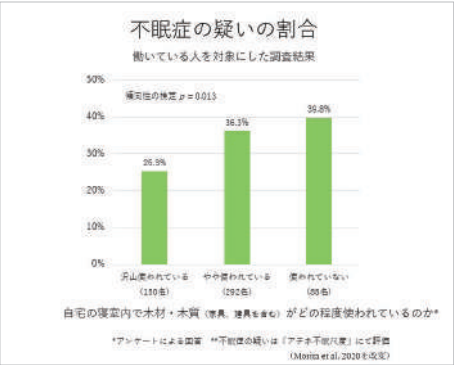


ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

みなと森と水ネットワーク会議

みなと森と水ネットワーク会議(東京都)

都市部と林業自治体の連携による木材利用の先導的モデルとして継続性、実績ともに優れた取組である。認証制度は施行から10年目を迎えており、建築物は170件を超える。人的交流や木材利用のスキルアップ、消費者の理解醸成など、都市部における木材利用のさらなる成果を期待する。



ハートフルデザイン部門 技術・研究分野

寝室に木材系内装や家具が多いと働く人の不眠症の疑いが少ないことを実証：筑波大学睡眠疫学プロジェクト

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所（茨城県）、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構（茨城県）、筑波大学医学医療系産業精神医学・宇宙医学グループ（茨城県）、帝京大学（東京都）

木材利用と健康の関連性を科学的に実証した社会有用性の高い研究である。睡眠のメカニズム、睡眠と心身の関係、木材の健康効果の3つが揃うことが必要であり、本作品はそれに取り組んだ貴重なものである。エビデンスが整うことで、寝室の家具や内装材に木材を使うことの必然性がさらに加速されることを期待したい。



ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

東馬込の家（東京都）

（株）松井郁夫建築設計事務所（東京都）、（有）キューブワン・ハウジング（東京都）

日本の伝統構法を新たな解釈で現代の暮らしにつなぐ、シンプルで良質な家づくりがよい。伝統的な技を活かしたパッシブエネルギーを活用する家は温熱環境面でも高い性能を確保する。



ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

世界的に価値の高いクラフトジンの商品化を通じた里山との関係構築 ～ネズミサシの活用と持続的な育成～

中国醸造（株）（広島県）、田口生産森林組合（広島県）、賀茂地方森林組合（広島県）、（有）一場木工所（広島県）、広島県立総合技術研究所 林業技術センター（広島県）

クラフトジンの原料を里山林に自生するネズミサシ球果で代用。地域の木と嗜好品の間に新たな接点を拓いた点、国産を使ってその質を高めた点は重要である。住民、森林組合や林業技術センターと連携しネズミサシの産地形成を進めており、森の経済的価値向上と保全につなげている。



ハートフルデザイン部門 コミュニケーション分野

ハケ岳カラマツチェンバロ・プロジェクト

（株）ハケ岳高原ロッジ（長野県）、久保田チェンバロ工房（埼玉県）、双葉林業合資会社（長野県）、（株）そごう・西武（東京都）

1960年代前半、この地に33万本のカラマツを植えることから始まり、50年余の時を経て日本最大級の高原リゾートとなったハケ岳で、自然、森林、芸術が織りなす新たな取組として評価した。国内屈指の木造コンサートホールで奏でられるチェンバロは、木目を大切にしたい美しいデザインが特徴的である。場所・空間・道具が一体となった感性に訴える魅力的なプロジェクトである。

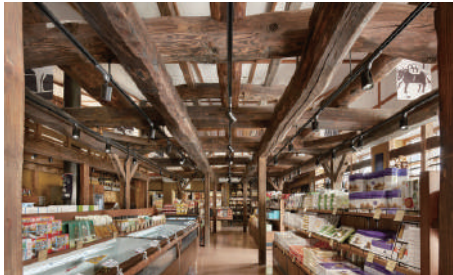


ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

蔵の家（京都府）

川上聡建築設計事務所（京都府）、フジタケイ建築設計事務所（大阪府）、関西木材工業（株）（大阪府）、（株）林工務店（京都府）

既存の酒蔵や土蔵といった閉鎖的な空間を、木を巧みに使って既存家屋になじむ改修を施し、使い勝手や快適性の向上に寄与している。京町家を保存しながら現代の暮らしにマッチさせる工夫がある。



ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

古民家・古木サーキュラーエコノミー

（株）山翠舎（長野県）

古民家・古木（古材）の活用を通じて、古木の所有側、活用側のマッチングを促進するビジネスモデルであるが、古木の持つストーリー性や希少性などを活かしたアップサイクル型となっている。メディアや物販といった生活者とのコミュニケーションにも注力している。



ハートフルデザイン部門 建築・空間分野

奈良県コンベンションセンター

（奈良県）

奈良県（奈良県）、PFI奈良賑わいと交流拠点（株）（奈良県）、（株）大林組大阪本店一級建築士事務所（大阪府）、（株）梓設計（東京都）、（株）大林組（東京都）

吉野杉集成材と鉄骨のハイブリッド架構の大屋根広場のスケールの大きさと意匠が印象的な施設で、地域材の多様な活用方法を見せてくれる魅力的な空間である。構造材、内外装材のみならず、スギ皮和紙や鉋くずを貼ったガラススクリーンなど、アート性に富んだ多彩な表情が面白い。地域の交流拠点として、万葉集に代表される天平文化の高貴さの表現と木の質感や表情がうまく融合している。



ハートフルデザイン部門 建築・空間分野

富士屋ホテル RE-BORN（東京都）

（株）乃村工藝社（東京都）、（株）エフラボ（石川県）

明治初期の建設以来、140年を超える歴史を持つホテルの大改修にあたって良質な材で制作された家具を補修、再設置した。木の持つ時間的な価値や魅力が宿泊客に感じさせてくれる取組と言える。



ソーシャルデザイン部門 技術・研究分野

2x4工法 床構面開発事業

ウイング（株）（東京都）

床や壁の構成部材の大断面化によって国産大径材活用を進めるとともに、剛性や精度などの向上にも寄与する社会提案性の高い技術である。構造上、開口部の制約が減るため、サッシの取り付けなど空間デザインの自由度も上がる。



ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

1964東京オリンピックゆかりの木プロジェクト

公益財団法人日本オリンピック委員会(東京都)、北海道(北海道)、遠軽町(北海道)、北海道家庭学校(北海道)、乃村工芸社・電通・電通ライブコンソーシアム(東京都)

ミュージアムの天井にはゆかりの木の木製ルーバーが設置され温かく美しい空間が来場者をもてなす。これは日本に一台しかない節あり突板を製作できる北海道内の事業者と連携による。ウェルカムウォールの五輪オブジェはミュージアムのある地元小学生のワークショップから生まれた。年月を可視化してくれる森と木が、オリンピック・レガシーを次の世代にまた引き継いでくれるだろう。



ハートフルデザイン部門 建築・空間分野

Sou(兵庫県)

atelier thu(兵庫県)、(株)山本安工務店(大阪府)

傾斜する敷地に沿って床レベルに高低差をつけることで建物の高さを抑えることに成功している個人住宅。風が通り抜ける心地よい木質の空間は外部の地形とつながっているようである。



ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

FLATS WOODS 木場(東京都)

(株)竹中工務店(東京都)、齋藤木材工業(株)(長野県)、(株)サイプレス・スナダヤ(愛媛県)、三井物産フォレスト(株)(東京都)、山佐木材(株)(鹿児島県)、(株)山長商店(和歌山県)

新たに開発された木造部材の採用により、簡易かつ汎用性ある接合や施工方法を確立した社会提案性の高い、チャレンジングな取組である。12階の共用部には各技術や部材をモチーフとした家具が配され、利用者が直接、木の温もりや香りを感じることができる。都市の景観に柔らかなさを与えつつ、森林資源と経済の循環を目指す先導的モデルである点を高く評価した。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

森をまとう 六甲の糸・ファブリック&六甲山の香り・ファブリックミスト

六甲山サイレンスリゾート(兵庫県)、縁樹の糸(大阪府)

スカーフは繊維原料として六甲山産スギを使用しており、アロマミストは原料に六甲山産スギや国産ヒノキ、ヒバ等のエッセンスを使用している。自然と一体化したリゾートにふさわしい、新しい形の木に触れ、感じるプロダクト。



ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

西脇市立西脇小学校保存・改修に伴う基本計画および工事(兵庫県)

西脇市(兵庫県)、西脇小学校保存改修に伴う基本計画・設計組織(兵庫県)、(株)内藤設計(大阪府)、(株)吉住工務店(兵庫県)

既存木造校舎の改修にあたり、耐震、耐火やバリアフリー化、温熱環境への配慮などの対策を実施し、木造建築の価値を再認識させる契機を生んだ。ワークショップやアンケート調査、市民へのプレゼンテーションを通じ、改修の理解醸成を図った点は重要だ。コストも建て替えよりも安価で済んでおり、地域の記憶を留める木造校舎が次の世代にも引き継がれ、新たな木材利用の扉を拓くことを期待する。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

木製ブロック ズレンガ

(株)浅尾(滋賀県)

2種類のパーツからなるレンガのような大きさのブロックで、3歳児から遊べ、4、5歳児ともなると子供たちだけで実際に入れる家が組立てられる。全ての面で連結可能なので動物やロボットなどの複雑な形状物でも直感的・巨大に組み立てられる。

ウッドデザイン賞2020結果

- 総応募数 432点
- 受賞数 191点
- 最優秀賞 1点 ● 優秀賞 9点 ● 奨励賞 15点
- 特別賞 4点

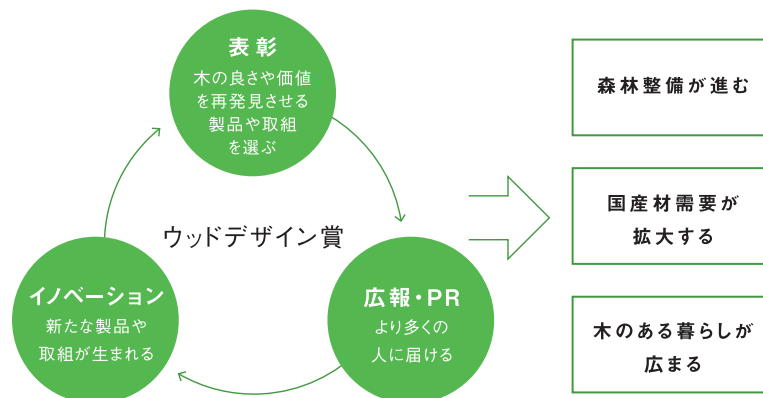
Webサイトより全ての受賞作品についてご覧いただけます。

<http://www.wooddesign.jp/>



ウッドデザイン賞とは

ウッドデザイン賞は、「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、暮らしを豊かにする、人を健やかにする、社会を豊かにするという3つの消費者視点から、優れた製品・取組等を表彰するものです。



ウッドデザイン賞2020実施概要

- 主催:ウッドデザイン賞運営事務局((特)活木活木森ネットワーク、(公社)国土緑化推進機構、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所)
- 林野庁補助事業
- 募集期間:2020年6月22日(月)～7月31日(金)

●応募対象分野

① 建築・空間・建材・部材分野	店舗、施設、オフィス、住宅、建材、部材等
② 木製品分野	家具、インテリア、食器、日用品、雑貨、文具、遊具等
③ コミュニケーション分野	ワークショップ、プロモーション、人材育成、ビジネスモデル等
④ 技術・研究分野	技術、研究、試作品等

●表彰部門

ライフスタイル デザイン部門

木を使って
暮らしの質を
高めているもの

木を使うことで機能性や利便性を高めている、新しい領域で木の活用が提案されている、消費者に木のある豊かな暮らしを提案している、建築、空間、木製品、コミュニケーション、技術・研究など。

ハートフル デザイン部門

木を使って
人の心を豊かにし、
身体を健やかにしているもの

木を使うことで快適性を高めたり、五感や感性に働きかける、リラックス効果や健康増進効果がある、作り手や担い手のストーリー性を伝えている、建築、空間、木製品、コミュニケーション、技術・研究など。

ソーシャル デザイン部門

木を使って
地域や社会を
活性化しているもの

木を使うことで地域や森林の活性化に貢献している、持続可能な森林利用の仕組みを生み出している、木材利用の意味を啓発したり、人材育成をしている、建築、空間、木製品、コミュニケーション、技術・研究など。

●応募～発表・PRまでの主な流れ

応募受付期間(2020年6月22日～7月31日) ▶ 第一次審査(書類・資料による審査) ▶ 第二次審査(現物・映像を含む審査) ▶ ウッドデザイン賞(入賞)結果通知・発表 10月14日 ▶ 最終審査 ▶ 最優秀賞、優秀賞、奨励賞・特別賞発表 12月11日 ▶ 表彰式12月18日(金) ▶ ブックレット、展示会等でのPR(予定)

●公式ウェブサイト

<https://www.wooddesign.jp/>

ウッドデザイン賞に関する最新のイベント・展示情報や次回開催のお知らせなどを随時、更新しています。

最新情報をお届けしますので、メールアドレス登録をお願いします。

●公式フェイスブック



ウッドデザイン賞
@wooddesignaward

受賞作品情報や審査員メッセージ、各種イベントなどのニュースをタイムリーにお届けします。





受賞後の展開

ウッドデザイン賞の受賞作品は以下の特典、広報が受けられます。

● ウッドデザインマークの使用

ウッドデザイン賞を受賞した作品は、ウッドデザインマークの使用が認められます。
マークを表示することで受賞の成果を訴求することができます。



ウッドデザインマークのデザインについて

日本の豊かな森の恵みを表す三角形に、「WOOD DESIGN」(W)を重ねたイメージ。アンシンメトリー(左右非対称)に連なる造形は、暮らしを豊かに、人を健やかに、地域と社会を活性化する多彩なスケールの木づかいが生まれていく、という意味を込めています。
デザイナー: 則武 弥

● 展示会等での消費者、小売・流通事業者への訴求

各地域で実施される展示会、交流会等で受賞作品の展示及びPRを行います。

● メディア・流通小売との連携企画の推進



2019広報イベントの様子

● ウッドデザイン・サポート連絡会 私たちはウッドデザイン賞を応援しています。

全国森林組合連合会
一般社団法人 全国木材組合連合会
一般財団法人 日本木材総合情報センター
一般社団法人 全日本木材市場連盟
公益財団法人 日本住宅・木材技術センター
森を育む紙製飲料容器普及協議会
日本集成材工業協同組合
日本合板工業組合連合会
一般社団法人 日本フローリング工業会
一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会
日本木材防腐工業組合
公益社団法人 日本建築士会連合会
公益社団法人 土木学会 木材工学委員会
一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会
一般社団法人 日本木造住宅産業協会
一般社団法人 JBN

一般社団法人 全国中小建築工事業団体連合会
公益社団法人 国際観光施設協会
一般社団法人 日本オフィス家具協会
特定非営利活動法人 芸術と遊び創造協会／東京おもちゃ美術館
一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会
林業復活・地域創生を推進する国民会議
美しい森林づくり全国推進会議
一般社団法人 日本森林学会
一般社団法人 日本木材学会
木材利用システム研究会
一般社団法人 全国LVL協会
全国天然木化粧合単板工業協同組合連合会
一般社団法人 木と住まい研究協会
公益財団法人 PHOENIX(木材・合板博物館)
日本複合・防音床材工業会
農林中央金庫